日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

92.4.6 No. 3569

92春闘 JR体制の弱点を痛打 事業団問題 「一企業一組合路線」破綻

われわれは今春、組織の総力をあげて、三波のストライキに起ちあがった。この闘いは、「JR体制」の弱点を痛打した。

分割・民営化攻撃が、わずか五年にして、およそあらゆる面で失敗に終わったことを現わにし、JR総連が雪崩をうって崩壊していく状況を前に、われわれは、「九二年は勝負の年だ、この好機を逃さず反転攻勢に起とう」という鮮明な方針を掲げた。この認識は、まさに正鵠を得た提起であった。

今春闘争は、「JR体制」を揺るがし、勝利への新たな一歩をしるしたことを自信をもって確認することができるのである。

JR総連革マルの大ヤガキ

当局の"良顔"スト 瓦解を促進

とりわけ、今春闘争は、JR総連の分裂・崩壊が次々と進行し、東日本・貨物においても、革マル支配の崩壊が目前に迫った状況のなかでの闘いであった。

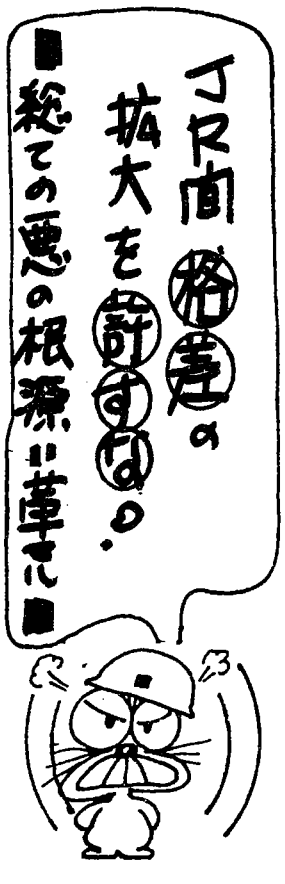
われわれは、この間の闘いのなかで、JR総連の崩壊と期を一にして、JR当局内部にも亀裂と矛盾が深まり、大きな変化が始まっていることを見ることができる。

このことを最も端的に示したのが、「国労のスト破りはできないが、所定の行路であれば乗務する」とした三・二五ストライキの戦術に対する千葉支社当局の対応であった。これは、二年前には「乗務する列車、乗務しない列車を区別するということは到底認めるわけにはいかない」「経営の根幹にかかわる問題だ」と称してはねつけたことである。それが、今回は、動労千葉の主張を全面的に受け入れたのである。われわれは、ここに「JR体制」の崩壊をはっきりと見てとることができる。

八九年十二・五ストライキ以来のわれわれのこの間の闘いが、当局・JR総連をここまで追い込んだのである。JR総連を軸とした「一企業一組合路線」は完全に失敗し、いよいよそのタガが外れようとしているのだ。

言うまでもなく、この間のとめどない合理化攻撃、強権的差別労務支配、清算事業団闘争圧殺攻撃の一方の元凶はJR総連・革マルである。しかし、JR総連の危機はとめどなく進行している。東海労・西日本労等の「スト」は、そのことを鮮明に示した。

この「スト」は何を意味するものだったのか？ 結局、ギリギリの土壇場まで追いつめられたJR総連のあがきである。「今までのようにJR総連をチヤホヤしてほしい」という、当局に対する哀願にすぎない。自らが当局と手を結んで、動労千葉や国労に対し、やりたい放題の差別・選別・首きり攻撃を続けていながら、当局によって使い捨てられると、今度は「不当労働行為だ」などと悲鳴をあげているのである。こんなペテンが通用しないことは、誰の目にも明らかだ。しかし、この「スト」の結果は、JR総連の瓦解をさらに促進し深めることになることは明らかである。



われわれは、今春闘争において、三月三一日の「会長発言」によって最大の山場とも言える新たな段階に入っている。われわれは、新賃金回答に示されたJR間格差格差の拡大を断じて許すことはできない。反合・運転保安闘争も、すでに次期ダイ改に向けて新たな闘いが始まっている。

今が勝負のときだ。今春闘争が切りひらいた闘いの地平の上に、不当解雇撤回を軸とした春から夏にかけての闘いの勝利に向けて、ただちに闘いの体制をつくりあげよう！

☆新住所・電話番号のお知らせ！

住所 千葉市中央区要町2－8
〒260（4月1日から）
電話 本部 043（222）7207
協販部 043（227）7833
カナメ 043（227）6832
FAX 043（224）7197
電話は4月29日からです。